

# 道普請人ルワンダでの活動を終えて

立命館大学 法学部 法律学科 2年 松澤 結

## 1. はじめに

この度は、道普請ルワンダ事務所での活動に参加させていただき、誠にありがとうございました。このような機会を設けてくださった木村教授、突然の問い合わせに対し、ご丁寧にご対応してくださった福林准教授、現地でのみならず、訪問前より大変お世話になった千葉さん、温かく迎え入れてくださったルワンダ事務所の職員の皆さんに心より感謝いたします。

以下に、今回の訪問の概要と得られた学びについてご報告させていただきます。

## 2. 参加経緯

中学・高校を通して単発ボランティアに参加するなかで、行動することの重要性を学んだ一方で、一度の行動で格差や貧困などの現状を改善することは難しいと感じました。その経験から、継続的な活動が、より有効であると考えようになりました。そこで、興味のある分野で具体的な目標を掲げ、長期的に活動している団体を探すなかで道普請人様のHPを拝見し、連絡をとらせていただきました。当初は日本で継続して活動に参加できることを探していたのですが、ルワンダという国に興味があったこともあり、現地での活動を実際に見る機会をいただけるということで、訪問を決めました。

## 3. 道直し

### 3-1. 現地での日程

第一週 月曜：到着、事務所業務の見学

火曜：ルワマガナ地区を回り、直す道の確認に同行

水曜～木曜：道直し訓練参加（ルワマガナ）

金曜～土曜：休暇（アカゲラ国立公園）

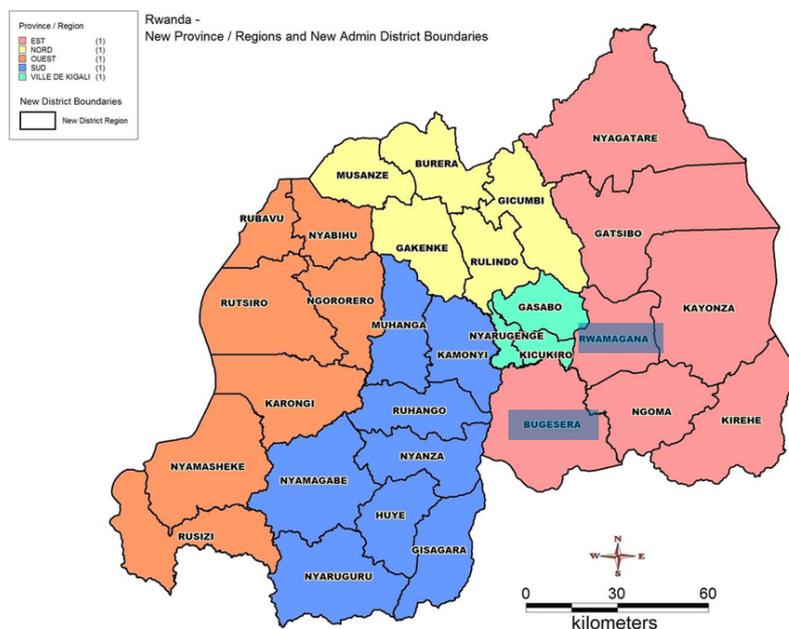
第二週 日曜：休暇（キガリ）

月曜～金曜：道直し訓練参加（ブゲセラ）

土曜：休暇（キガリ）

日曜：休暇、出立（キガリ）

### 3-2. 今回の現場



ルワンダ事務所では、2週間かけて一カ所の道直し訓練を行っていますが、ルワマガナでは2週間で4カ所の道直し訓練が行われました。

第一週はルワマガナでの一カ所目の活動に参加し、第二週はブゲセラでの一週目の活動に参加することとなりました。

### 3-3. 現場での作業工程

1日目 ブリーフィング後に道直しについて学ぶ

道が悪くなる原因、修復方法、危険性、グループ分け、リーダー決め、作業用具作り

2日目 グループごとに分かれて作業開始 土のう袋を作る

3日目～10日目 グループごとに分かれて作業 道路を掘り、土のう袋を埋める 測量

活動時間：8時～17時（18時） 昼休憩：12時～

第一週は、キガリに宿泊し、毎朝ルワマガナへ移動しました。第二週は、ブゲセラの宿にCORE エンジニアたちと宿泊しました。基本的に朝食は宿付近の食堂、昼は持参もしくはレストラン、夜は宿付近のレストランという形でした。



←ブロシエット（ヤギ肉の串）とジャガイモの炭火焼き  
料理人に注文して、調理してもらう

### 3-5. 悪路となる要因

- ・雨による土砂流出
- ・交通量の過多による溝の発生
- ・地盤が緩いことによる地盤沈下 等

### 3-6. 道直しの基本方針

- ・基本的に、どの道直し訓練も2週間で完了する
- ・使用した工具は道直しをした郡に寄付する
- ・道ごとに郡政府の要望を聞きながら職員全員で施工法や予算などについて話し合い、郡政府と調整



←ガキンジロ（キガリ）

ここで、道直しに使用する工具や参加者に支給するヘルメットなどの装備を注文し、製造してもらう

### 3-7. 現場の様子

ルワマガナでは、郡政府から委託されているルワンダ運輸局傘下の道直し零細企業と道直し訓練を進めるということで、CORE スタッフの方々が今後の方針について相談する様子や、現地に出向いての零細企業の人との話し合いなど、現場での活動の前段階の仕事についても多少ながら知ることができ、とても良い勉強になりました。ブゲセラでは、主要道につながる住宅地に面した道路の補修と、橋の建設が行われました。6~7人で構成された8チームが各受持ちエリアに分かれての作業となりました。

40人ほどの参加者の中には、女性も多く、中高年の方も数人いましたが、老若男女関係なく、皆とても体力があり、熱心に働いていました。参加者は郡内各地から参加している道直し組合員だけではなく、今後整備した道路を継続的に維持管理できるような地元の若者もあり、初日のブリーフィングでは、CORE エンジニアの説明を、多くの人が熱心にメモを取っていました。女性も土のう袋の運搬やコンパクターで土のう袋を押し固めるなどの重労働もこなしていました。また、声掛けや指示出しを積極的に行う女性も多く、年齢、性別にかかわらずリーダーシップをとっていることが印象的でした。音楽をかけながら作業をしたり、電話に出たりと自由にしつつ、昼休憩以外は常に作業の方法と流れを把握し、自ら能動的に動いて必要な作業を行っており、その様子は私が知っている、黙々と振り分けられた仕事を行う“職場”とは全く異なるものでした。英語を話せる人の割合は地域によりかなり

偏りがあるようで、ルワマガナでは1人、ブゲセラでは6,7人程で、子どもにも少し話せる子も数人いました。

昨年までの道直し訓練の卒業生で、今回道直し現場監督研修に参加していたアシスタントの方々は、CORE エンジニアとの共同作業に加え、参加者への声掛けや監督、各チームの作業の補助なども行っていました。



↑初日（地元の教会にて）  
CORE エンジニアによるホワイトボードを使用  
してのブリーフィング



↑道直しを通して地元の子どもたちと交流



↑バイクや自転車で表層土に撒く水の運搬  
をする



↑土のう袋を隙間なく規則的に敷き詰める



← 土のう袋を敷き詰め、コンパクターで締め固める

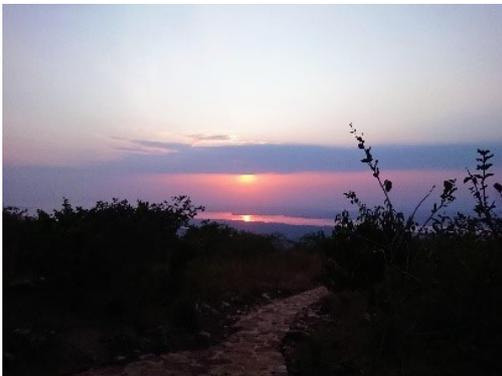
#### 4. 休日

(第一週) 金・土曜日に、アカゲラ国立公園に一泊し、養蜂場見学、バナナビール造り、サファリツアーなどに参加しました。

(第一週) 日曜日は、ジェノサイドメモリアルを訪問し、午後は千葉さんがキガリ市内を案内してくださいました。

(第二週) 土曜日は、職員の方が知人の結婚式に招待して下さり、結婚式に出席しました。

(第二週) 日曜日は、キガリ市内を観光し、空港へ向かいました。



↑イヘマ湖（アカゲラ国立公園）



↑結婚式の披露宴（キガリ）

#### 5. 挑戦

慣れない作業の連続だったので、体力的に大変でした。肉体労働が主で、毎日全身疲れましたが、睡眠時間を十分に確保できたので無事最終日まで働くことができました。

また、言語の壁にも直面しました。キニヤルワンダ語を話せないだけでなく、英語を話す

際にも文構築に時間がかかり、とっさに英語が出てこないこともしばしばでした。しかし一生懸命伝える努力をすれば、たとえ拙くとも多くの相手は真剣に聞いてくれるということを知ることができました。失敗への羞恥心を捨てることは難しいですが、伝えたいという気持ちで、努力をすることの意義を、身をもって学びました。

現地の人とは最初は距離があり、皆キニヤルワンダ語で会話しているため、話しかけづらさがありました。相手が動くのを待つのではなく、自分から一步踏み出すことを心掛けました。また、相手の言葉が分からないときは、相手の気持ちも分かりづらくなるため、自分の気持ちが伝わるよう笑顔で接することを意識しました。CORE スタッフに教えていただいたキニヤルワンダ語の挨拶をすると、キニヤルワンダ語で話しかけてくれたり、ジェスチャーで作業を教えてくれたり、キニヤルワンダ語を教えてくれたりと、積極的に関わってくれたことで現地での作業を楽しい雰囲気で行うことができました。

## 6. 2週間を通しての感想と気づき

今回の訪問を通して、知識や技術面での支援の重要性を実感しました。しかし、自立支援の観点からみた場合、効果が短期的かつ制限されている支援に比べ、一度移転された知識はその後何十年も現地の人々が活用可能で、被支援者という立場からの脱却への有効性に目を向けることができました。

どのような支援が必要とされているのか、支援者側が必要だと考える支援と現地が希望する支援との間に齟齬が生まれると、お互い納得のいかない結果につながる可能性が高まるので、それを防ぐため、現地で実際に調査することは重要であると気づきました。また、知識として、データとして知ることと、実際に自分の目で見て、人々と交流して得られる知識や考えは全く異なるのだということも、身をもって知りました。これらの体験により、現地での活動することの意義を再発見することができました。

作業開始日に、最初に土のう袋の縛り方を習い、挑戦した際に、自分は何年も使う道を作っているということを強く実感し、自分が行う作業ひとつひとつに対する責任の重みに気づきました。これから先多くの人に使われるのだと思うと、どれも手が抜けな作業であり、責任とやりがいを感じました。

今回、私はボランティアという形で訪問しました。しかし、土のうの知識も無く、キニヤルワンダ語も分からず、CORE 職員の方々だけでなく、現地の人々からも教えてもらうことや、気にかけてもらうことが多々ありました。私が現地でできたことより、現地の人々や千葉さんをはじめとする職員の方々にしていただいたことの方が圧倒的に多く、本当に多くの人の親切に助けられました。今回、自分にできることの少なさと、周囲の支えのありがたみを痛感したことは、これまで学生生活を送る中であまり意識していなかった、“いかに自分が周りに支えられているか”を見つめ直す良い機会となりました。

## 7. 最後に

ルワンダでの経験はとても濃密で、あっという間に 2 週間が経過しました。現地の人々と共に直した道路や風景、なにより現地で出会った人々とのつながりを、生涯忘れることはないと思います。私がルワンダという国を知り、好きになったのは、ルワンダで出会った人々のおかげです。次回は 2 週間ではなく、より長期間滞在し、さらに多くの発見ができればと思います。

最後になりましたが、温かく迎えてくださった千葉さんをはじめとするルワンダ事務所の職員の皆さん、本当にありがとうございました。千葉さんが渡航前から親身に相談に乗ってくださり、現地でもご多忙な中、いつも気にかけてくださったことで、とても充実した 2 週間となりました。休日にキガリを案内してくださり、国立公園のスケジュールを立てる際にも、大変お世話になりました。職員の方々は道直しや事務所に関する質問に丁寧に答えてくださり、とても勉強になりました。また、外国人の私に対して仕事のことだけでなく、家族のことや、ルワンダの文化や慣習・変化についても話してくださったことは、私にとってルワンダという国を身近にしてくれました。私に対しても将来のことや家族のことについて尋ね、拙い英語を真剣に聞いてくださったこと、チームの中に温かく迎え入れてくださったことが、とてもうれしかったです。心より御礼申し上げます。



↑ ブゲセラにて、一週間お世話になった職員の方々と、ドライバーさんと